

三条市食育の推進と農業の振興に関する 計画の指標分析

福祉保健部健康づくり課
経済部農林課

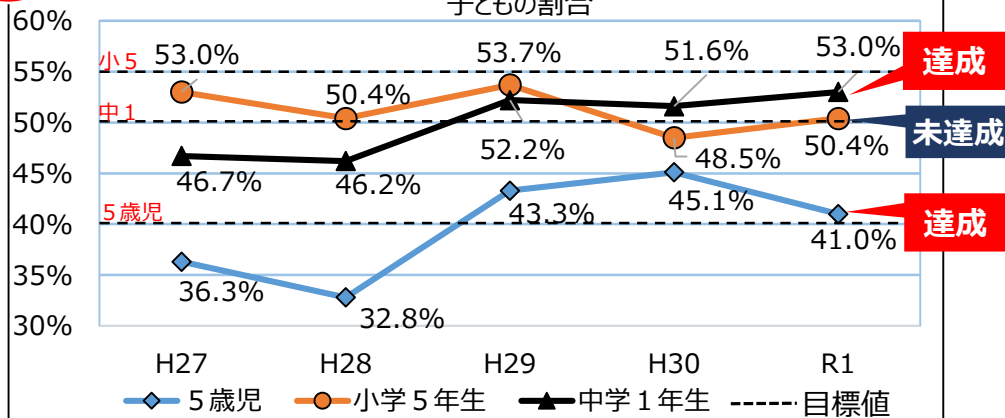
【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 ア 米飯食の推進①

指標

図1 朝食に主食、主菜、副菜のそろった食事を食べている

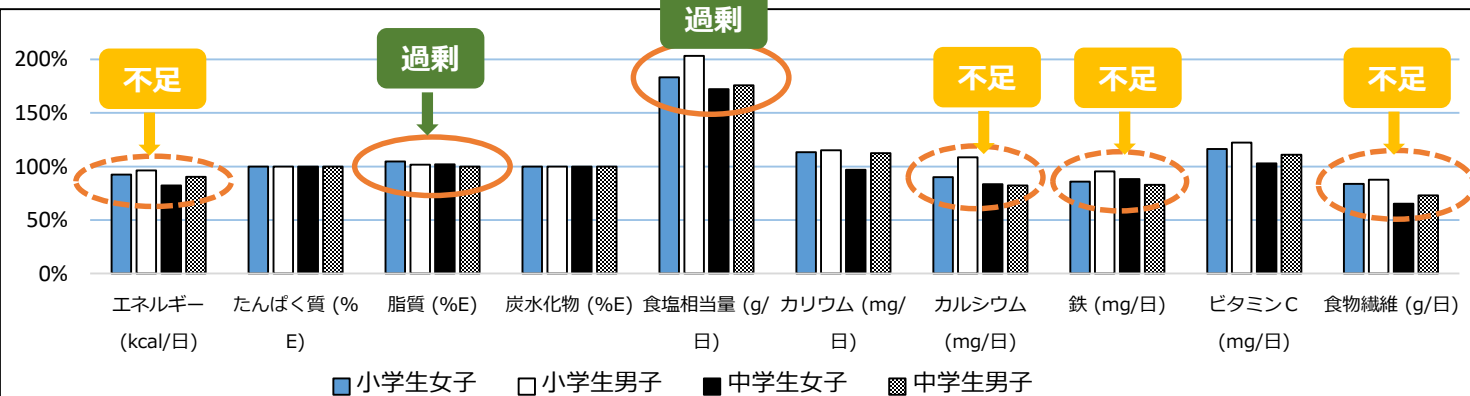
子どもの割合



朝食の状況において、主食、主菜、副菜のそろった食事を食べている子どもは、おおむね増加の傾向であった。

資料：三条市食事調査（5歳児）、食育授業ワークシート集計(小5、中1)

図2 小中学生の食事摂取基準に対する栄養素充足率 (%)



令和元年度に市内小学5年生及び中学1年生に対して行った食事調査の結果では、一日に必要なエネルギー、カルシウム、鉄、食物繊維が不足していた一方で、脂質と食塩相当量が過剰であり、栄養素の偏りが見られた。

資料：令和元年度三条市BDHQ食事調査結果

簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ : Brief-type self-administered diet history questionnaire)

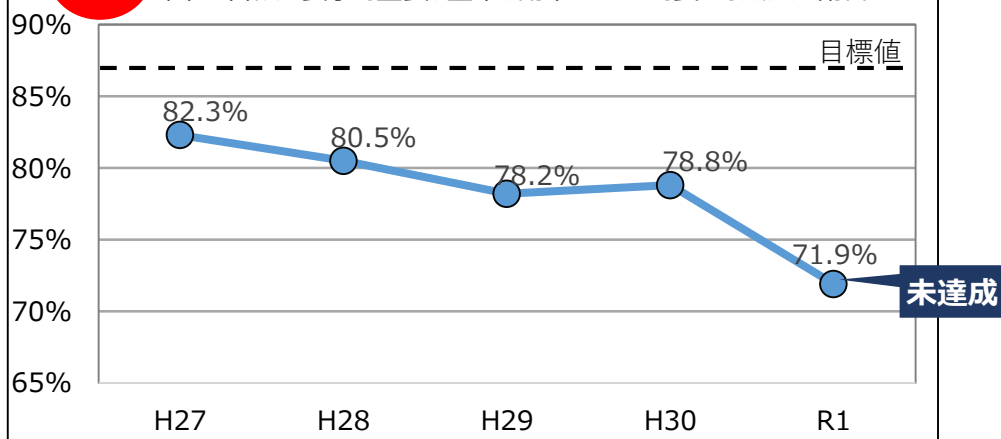
BDHQは他の調査法よりも簡便で、食品の摂取頻度に加え、調理法や食行動なども同時に尋ねることで過去1か月間に亘る習慣的な栄養素摂取量を把握することができる調査法である。

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 ア 米飯食の推進②

指標

図3 普段の食事で主食、主菜、副菜をそろえて食べる成人の割合



資料：三条市食育推進事業アンケート、特定健康診査アンケート調査

主食、主菜、副菜のそろった食事を食べる成人の割合は、年々減少している。(図3)

年代別では、20歳代の女性、30歳代、40代男性と若い世代で実行している割合が低かった。(図4)

主食、主菜、副菜をそろえた食事をしている人は朝食のごはんを主食にしている割合が高く、ごはんを主食にすると栄養バランスが整いやすい傾向が見られた。(図5)

図4 主食、主菜、副菜をそろえて食べる人の年代別・性別の割合

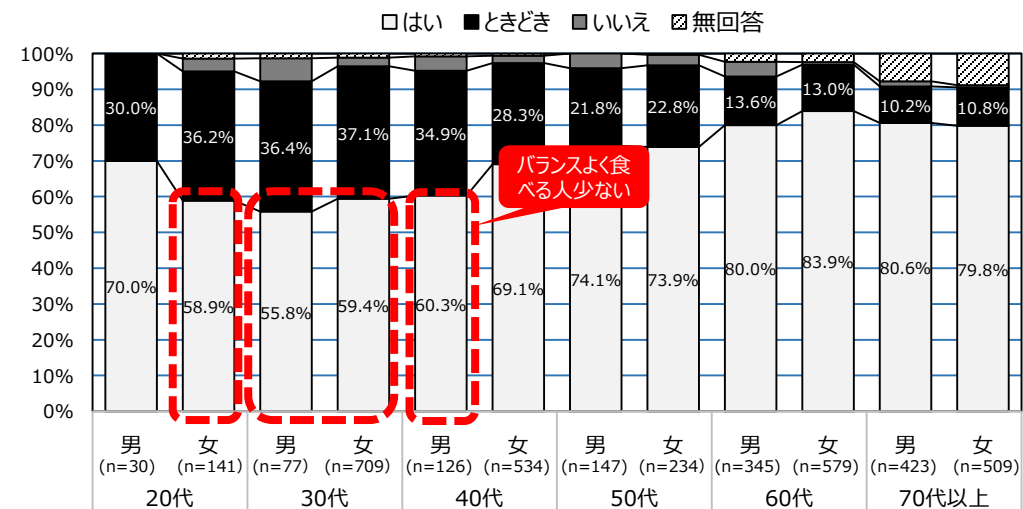
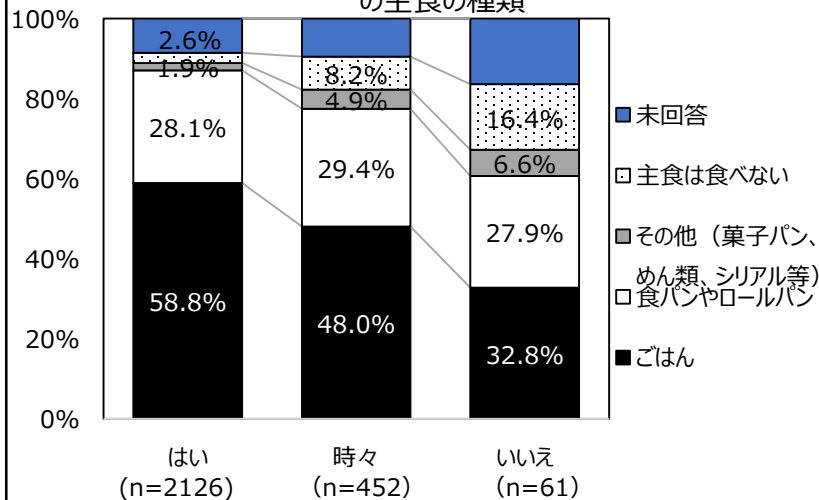


図5 主食、主菜、副菜をそろえて食べている状況と朝食の主食の種類



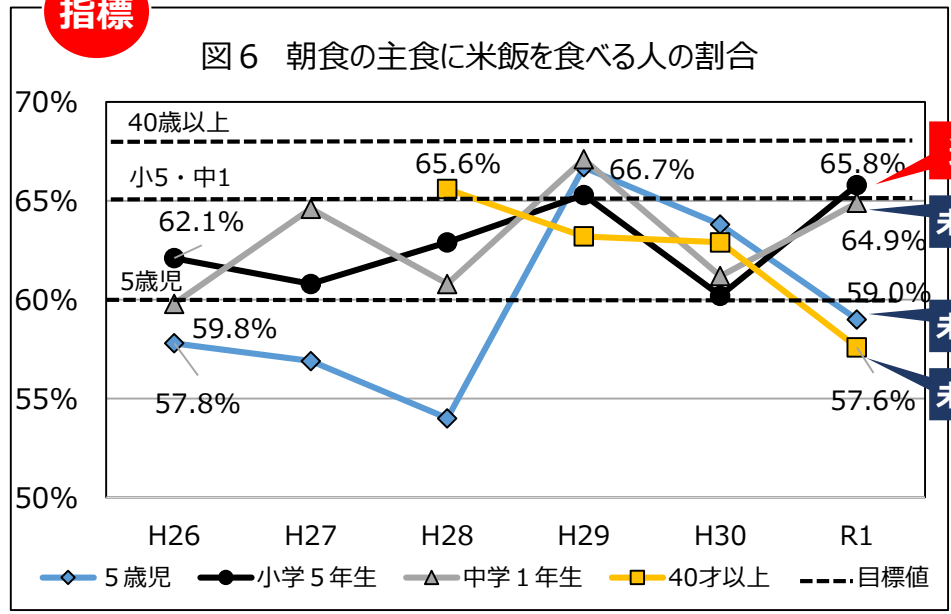
資料：令和元年度三条市食育推進事業アンケート、特定健康診査アンケート調査

資料：令和元年度三条市食育推進事業アンケート、特定健康診査アンケート調査

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 ア 米飯食の推進③

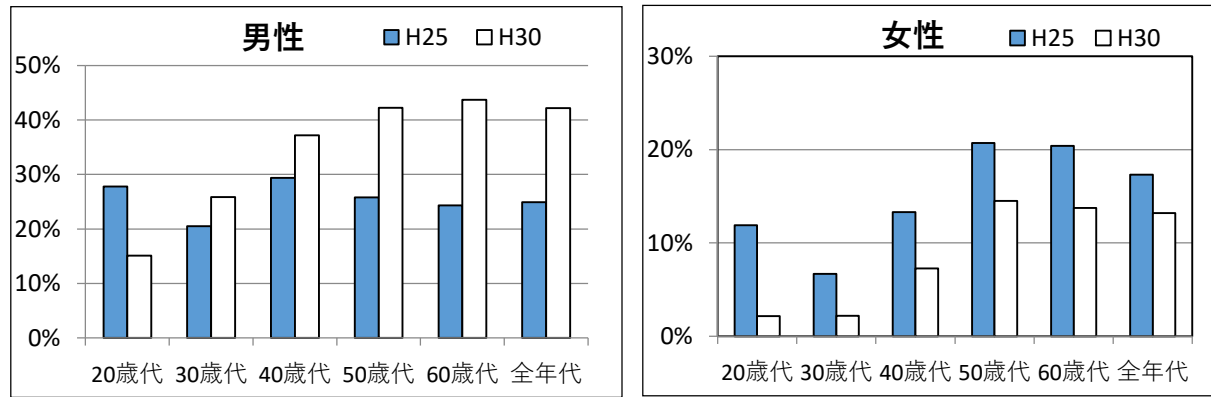
指標



朝食の主食に米飯を食べる人の割合について、児童生徒は、計画策定時に比べて改善が見られた。一方で、成人は年々主食にごはんを食べる人が減少している。

資料：三条市食事調査（5歳児）、食育授業ワークシート集計(小5、中1)、食育推進事業アンケート・特定健康診査アンケート調査（40歳以上）

図7 三条市メタボリックシンドローム（予備群含む）該当率



メタボリックシンドロームの該当率は、男性は30歳代から増加、女性は全体的に減少している。

資料：三条市国民健康保険特定健康診査、後期高齢者健康診査

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 ア 米飯食の推進④

図8 肥満 (BMI25以上) の割合

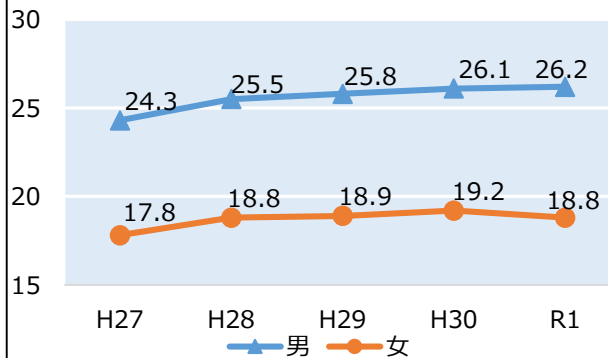


図9 高血圧有所見者の割合

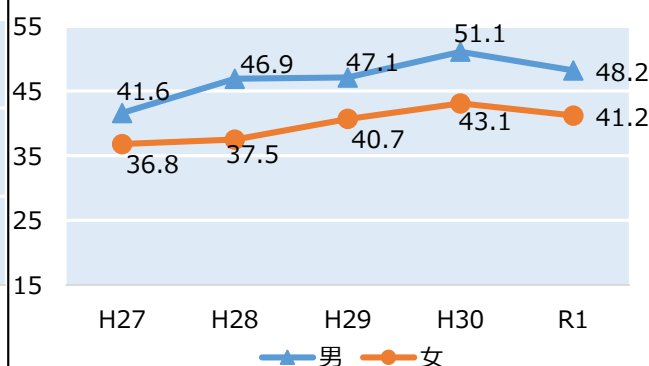
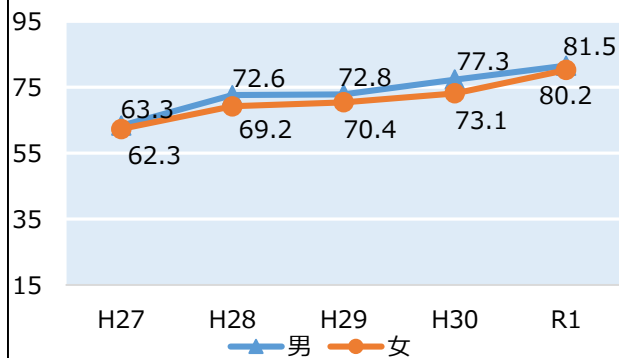


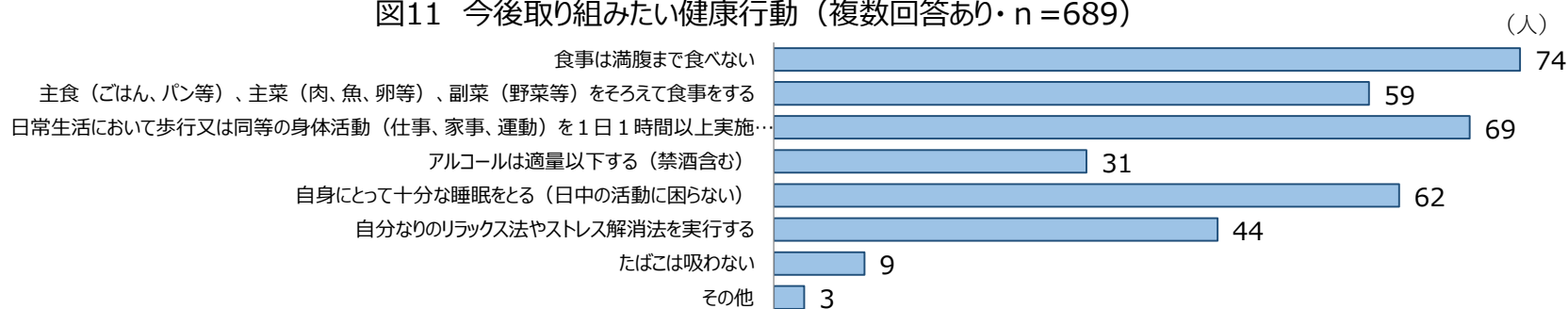
図10 糖代謝異常有所見者の割合



資料：三条市国民健康保険特定健康診査、後期高齢者健康診査

肥満者 (BMI25以上) の割合、高血圧と糖代謝異常の有所見者の割合は男女共に平成27年度から増加傾向にある。肥満者の増加は食べ過ぎやエネルギー出納のアンバランス、高血圧有所見者の増加は塩分の摂り過ぎ、糖代謝異常有所見者の増加は栄養バランスの乱れが一因と推察される。

図11 今後取り組みたい健康行動 (複数回答あり・n = 689)



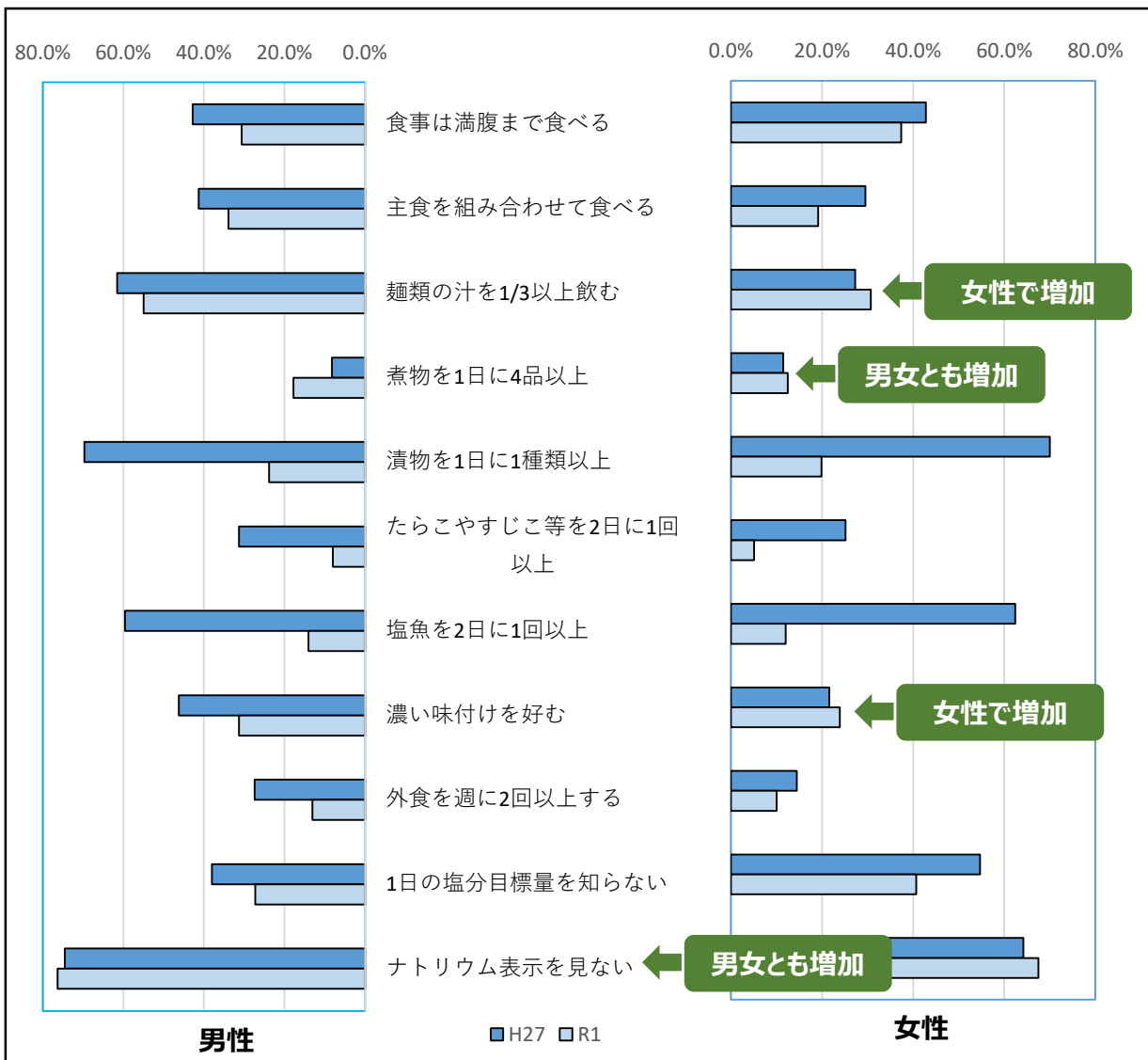
資料：令和元年度健幸づくり実態調査結果

令和元年度の健幸づくり実態調査では、今後取り組みたい健康行動の上位に「食事は満腹まで食べない」「主食、主菜、副菜をそろえて食事をする」があり、食に関する行動変容の意思が見られた。

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

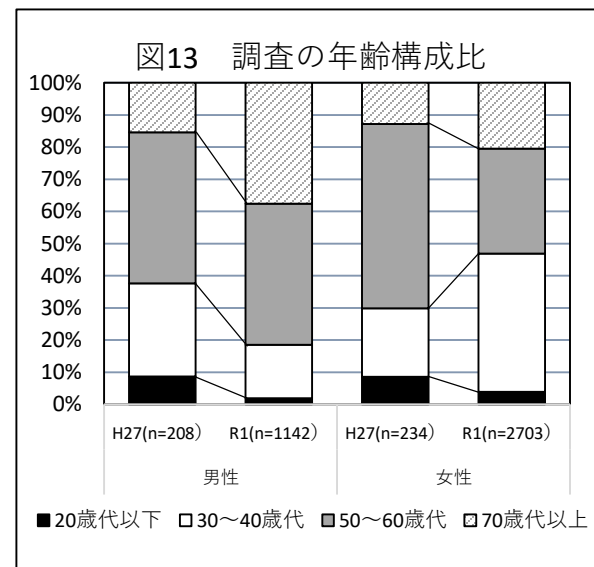
基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 ア 米飯食の推進⑤

図12 食生活チェックリストの該当者



高塩分につながりやすい食習慣チェックの該当者の割合は、塩分調査を実施した平成27年度に比べて令和元年度では下がっている項目が多い。

しかし、「煮物を1日に4品以上」「ナトリウム表示を見ない」の項目は、男女ともに増加した。



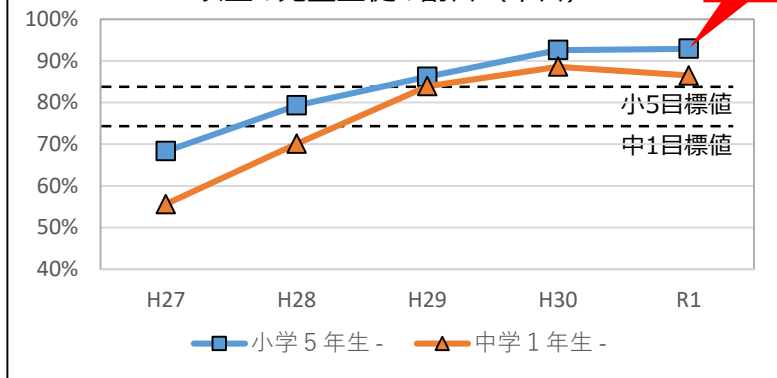
資料：高塩分につながりやすい食習慣チェックリスト調査

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 イ 共食の推進①

指標

図14 家族の誰かと一緒に食事する回数が週7回以上の児童生徒の割合(平日)



達成

資料：三条市生活実態調査

家族の誰かと一緒に食事をする回数が週7回以上の児童生徒の割合は策定時に比べて増加し、目標値を達成した。

表1 共食頻度と精神的健康状態の関係

WHO-5精神的健康状態※1	小学5年生平均点		中学1年生平均点	
	週7回未満	週7回以上	週7回未満	週7回以上
明るく、楽しい気分で過ごした	3.38	3.50	3.87	4.13*
落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	3.85	4.09	3.78	3.98
意欲的、活動的に過ごした	3.69	3.80	3.37	3.61
ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	3.62	3.71	3.57	3.74
日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	3.33	3.78*	3.12	3.38
粗点(合計)	17.87	18.88	17.71	18.83*

資料：平成30年度三条市生活実態調査

* p値<0.05(検定)**

小学生では、共食頻度が多い人の方が最近2週間の状態で「日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった」期間が長い傾向にあった。中学生では、共食頻度が多い人の方が最近2週間の状態で「明るく、楽しい気分で過ごした」期間が長い傾向にあり、共食頻度で差があることが分かった。また、中学生では粗点も共食頻度が多い人で高い傾向にあり、共食頻度が低い人に比べて精神的健康状態が高かった。

※1 WHO-5精神的健康状態表

世界保健機関(WHO)により開発され、5つの項目について最近2週間の状態をいつも(5点)、ほとんどいつも(4点)、半分以上の期間を(3点)、半分以下の期間を(2点)、ほんのたまに(1点)、まったくない(0点)に分け、一番近いものに印を付けてもらう。数値が高いほど精神的健康状態が高いことを示す。

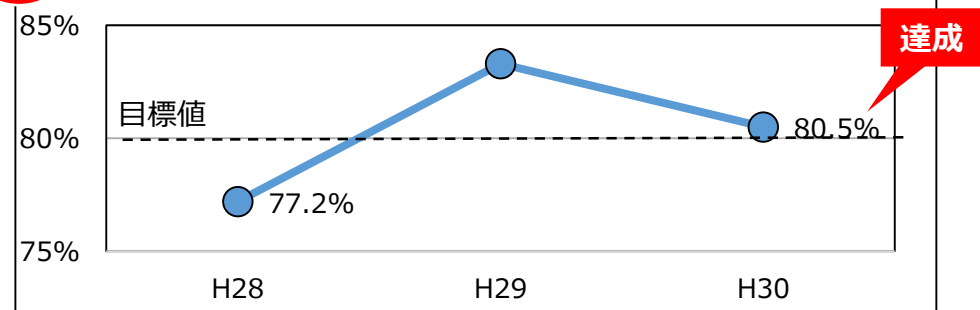
粗点は、5つの回答の数値を合計して計算する。粗点の範囲は0~25点で、0点は最もQOLが不良であることを示しており、25点は最もQOLが良好であることを示している。13点未満の得点は精神的健康状態が低いことを示し、うつ病のためのテストの適応となる。

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 イ 共食の推進②

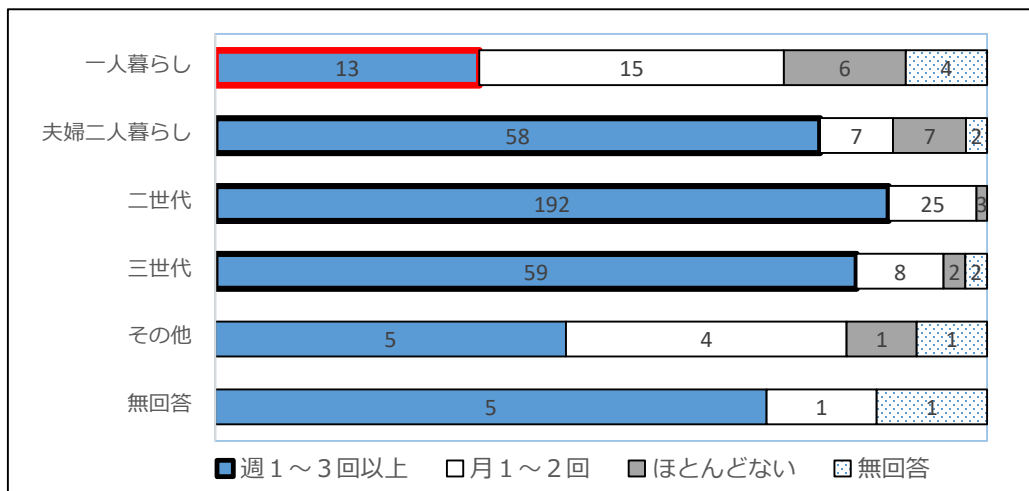
指標

図15 誰かと一緒に食事する頻度が週1日以上ある高齢者の割合



資料：三条市共食実態調査（ふれあいいきいきサロン対象）

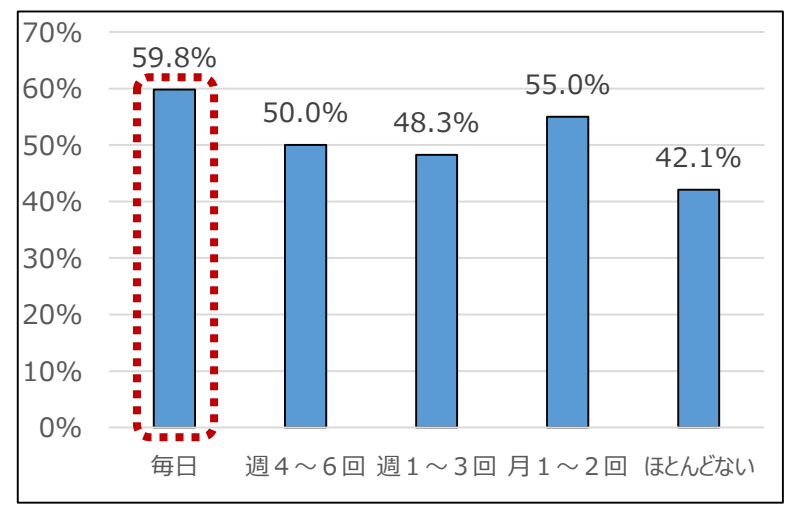
図16 共食の頻度 (n=421)



資料：令和元年度健幸づくり実態調査結果

令和元年度に実施した健幸づくり実態調査からは、週1回以上の共食頻度の方は、1人暮らしの方で他の世帯状況よりも低い傾向であり、家族構成が共食頻度に影響していた。

図17 共食の頻度と生活の満足度（満足・やや満足）の関係



資料：令和元年度健幸づくり実態調査結果

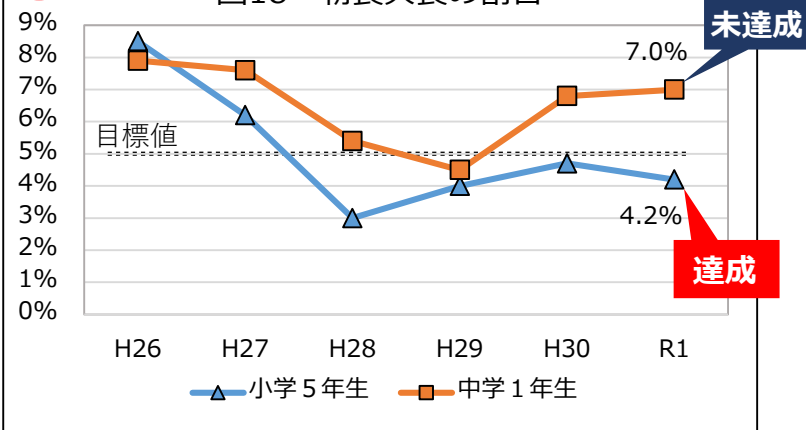
共食頻度が高いほど生活の満足度が高いことが再確認された。

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 イ 共食の推進③

指標

図18 朝食欠食の割合



朝食欠食の割合は小学生で目標を達成したが、中学生では目標値に届かなかった。

資料：三条市生活実態調査

表2 朝食の有無と精神的健康状態の関係

WHO-5精神的健康状態表	小学5年生平均点		中学1年生平均点	
	朝食無し	朝食あり	朝食無し	朝食あり
明るく、楽しい気分で過ごした	3.67	4.10**	3.81	4.12*
落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	3.53	3.81	3.92	3.97
意欲的、活動的に過ごした	3.47	3.71	3.02	3.64**
ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	3.33	3.77*	3.21	3.78**
日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	3.37	3.49	3.10	3.41
粗点(合計)	17.37	18.88*	16.77	18.93**

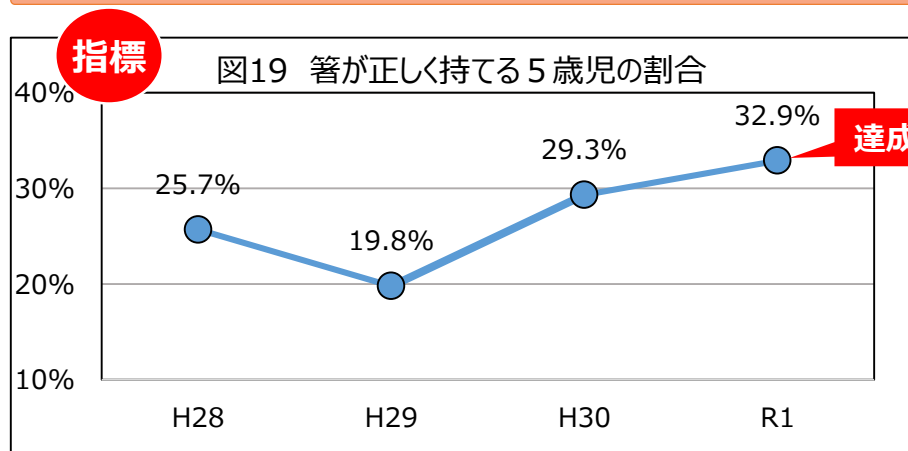
小学生では朝食を毎日食べている人は最近2週間の状態で「明るく、楽しい気分で過ごした」「ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた」期間が長く、中学生では朝食を毎日食べている人は最近2週間の状態で「明るく、楽しい気分で過ごした」「意欲的、活動的に過ごした」「ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた」期間が長く、朝食の有無で精神的健康状態に差があることが分かった。

資料：平成30年度三条市生活実態調査

* p値<0.05、** p値<0.01 (t検定)

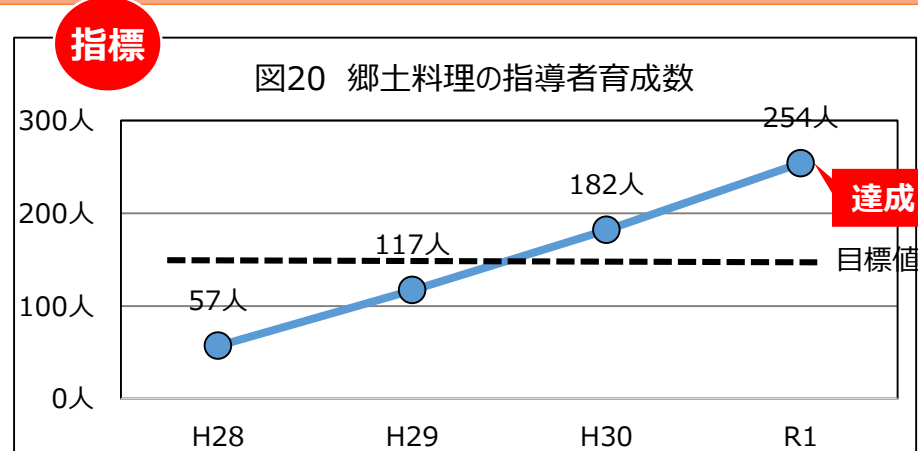
【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(1)望ましい食習慣の定着 主要施策 ウ 食文化の伝承



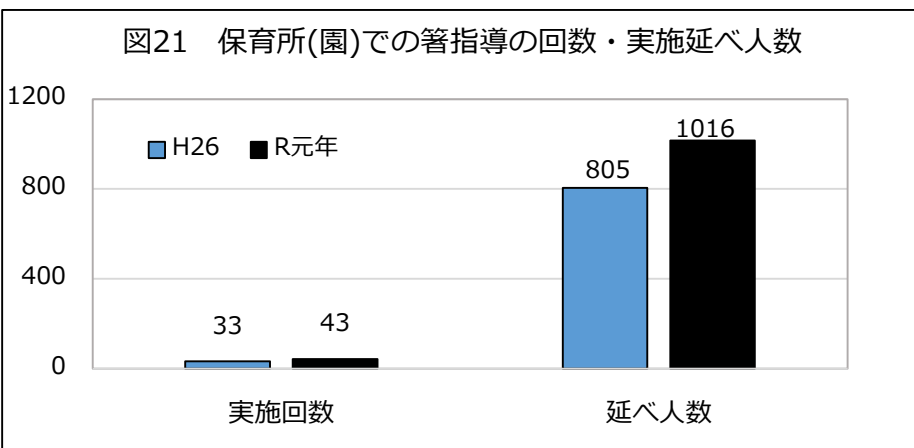
資料：三条市保育所巡回調査

箸が正しく持てる児童の割合は平成28年度に比べて増加し、目標を達成した。



資料：第三回食推研修会

郷土料理の指導者育成数（延べ人数）も年々増加し、目標を達成した。



資料：三条市保育所巡回指導

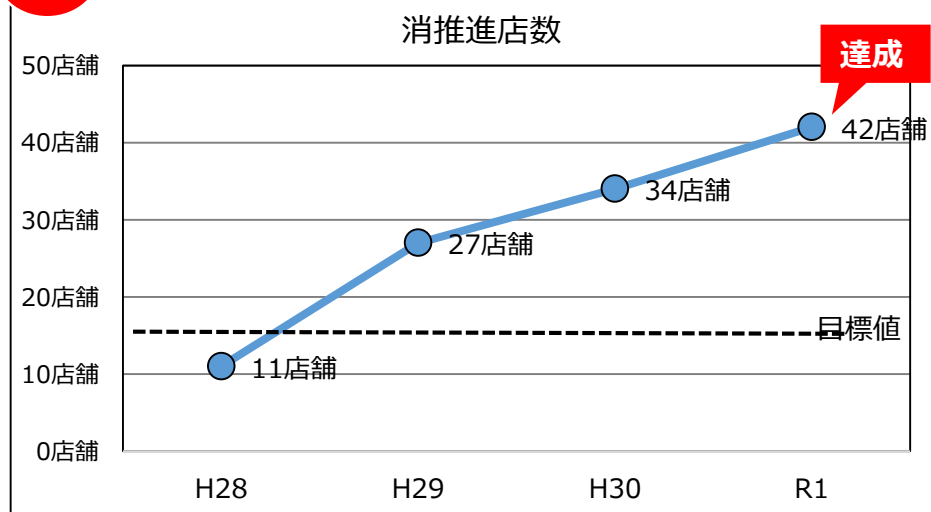
保育所（園）での箸指導の回数・実施延べ人数共に平成26年度に比べて増加している。

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(2)食育推進機運の醸成 主要施策 ア 食育推進への理解促進①

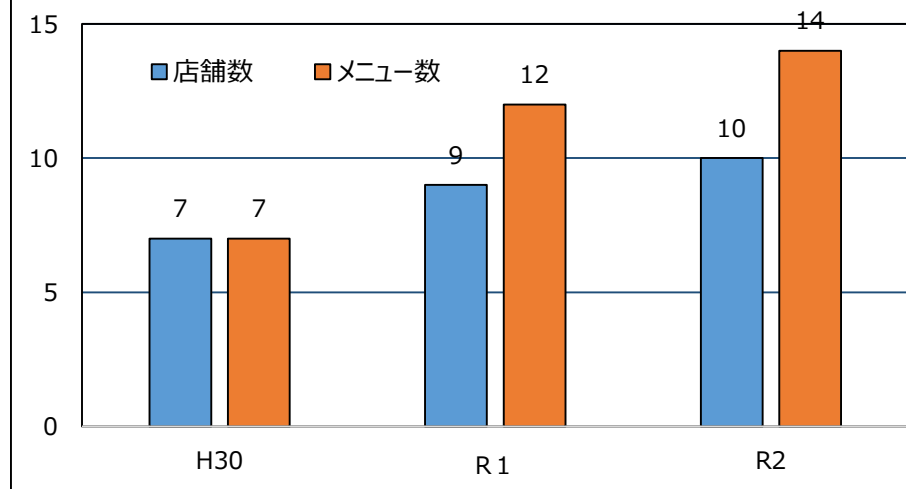
指標

図22 健康的なメニュー提供や啓発に取り組んだ地産地



健康的なメニュー提供や啓発に取り組む地産地消推進店は年々増加傾向である。

図23 スマートミール認証店



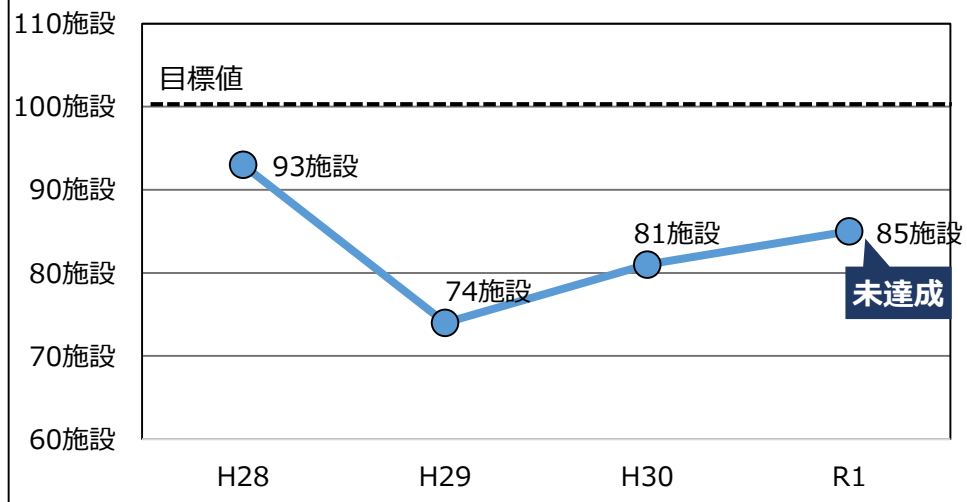
平成30年から取り組み、市が認証のための支援を行っている「健康な食事（通称：スマートミール）・食環境」認証制度に登録する店舗数、メニュー数共に増加している。

【参考】指標の分析(食を通じた健康づくり)

基本方針(2)食育推進機運の醸成 主要施策 ア 食育推進への理解促進②

指標

図24 主体的に食育に取り組んだ事業者の数



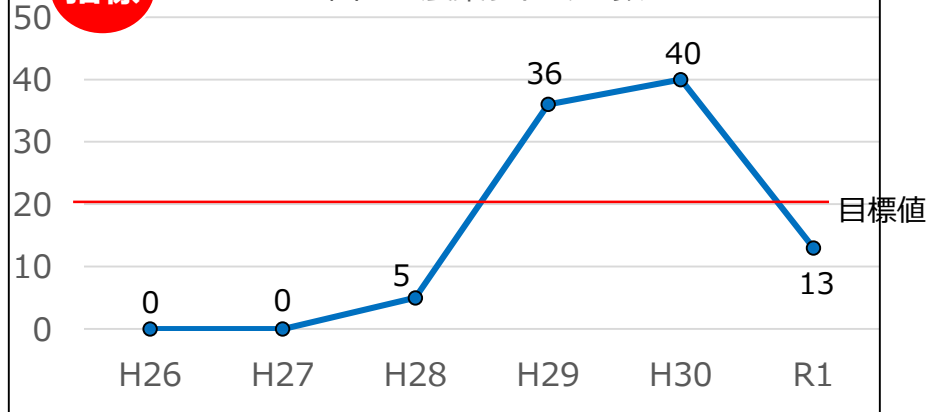
食育活動が定着してきた学校や保育所・園の統合で施設数が減少したこと、主体的に食育に取り組む地産地消推進店が減少したことから、目標値には届かなかった。

【参考】指標の分析(食と農で豊かな暮らしの実現)

基本方針(1)地産地消の推進 主要施策 ア 地域農業への理解促進

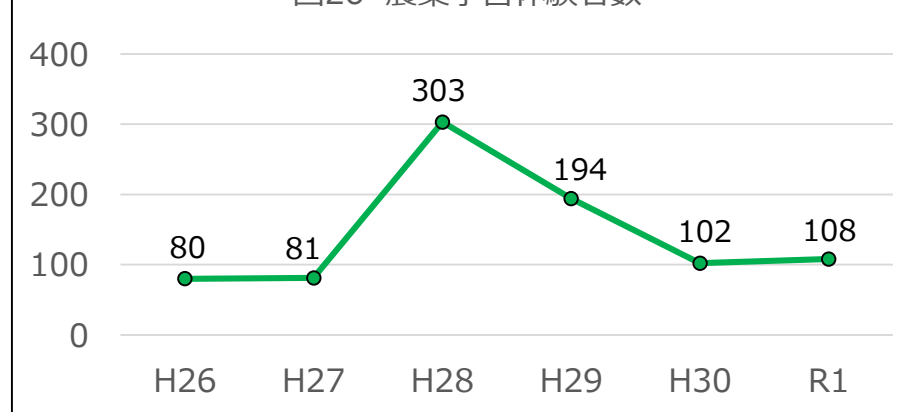
指標

図25 農業サポーター数



平成29、30年度と高齢者団体に加入を促したことで一時的に会員数は増加したが、活動実績がないサポーターが令和元年度に辞退したことで減少した。

図26 農業学習体験者数



平成30年度に事業の見直しを行ったため体験者数は減少したが、微増しているため農業への関心を持つ方は増えていると考えられる。

指標

表3 農業里親制度活用者数

	H26	H27	H28	H29	H30	R1
活用者数(人)	0	0	0	0	0	0

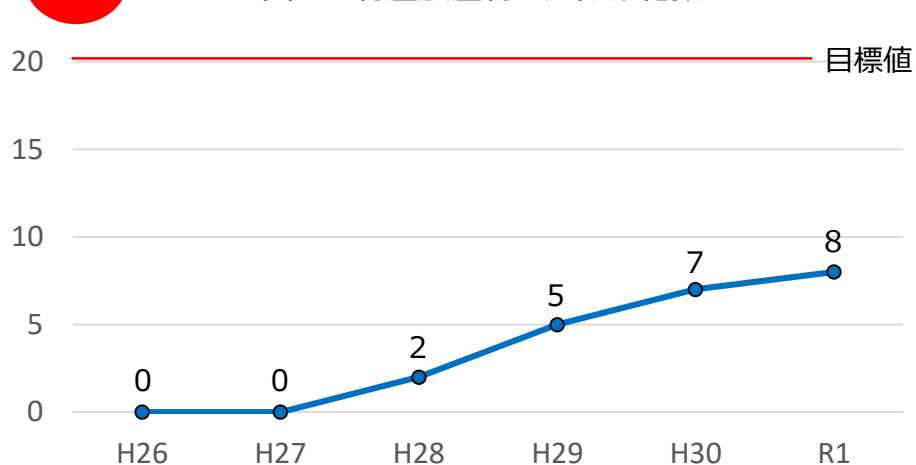
農業里親制度の活用者はなかった。アプローチの方法を検討する必要がある。

【参考】指標の分析(食と農で豊かな暮らしの実現)

基本方針(1)地産地消の推進 主要施策 イ 地場農産物の消費拡大①

指標

図27 特産農産物のテキスト化数

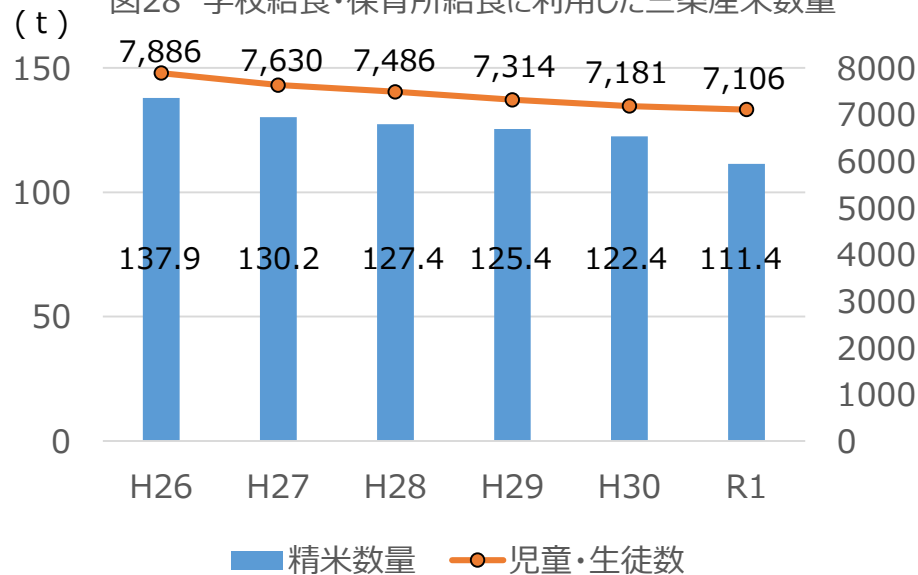


テキスト化とは農産物の歴史、品種や栽培法、食べ方等の特徴を明確にすることだが、現状のテキスト化はそこまで深掘されていない。

さらに、テキスト化した後にワークショップなどへの利用はなく、他のアウトプット先がない。

また、テキスト化数も目標値20に対して8に留まっている現状である。

図28 学校給食・保育所給食に利用した三条産米数量



児童・生徒数が減少しているため、給食に利用した三条産米の数量の減少している。

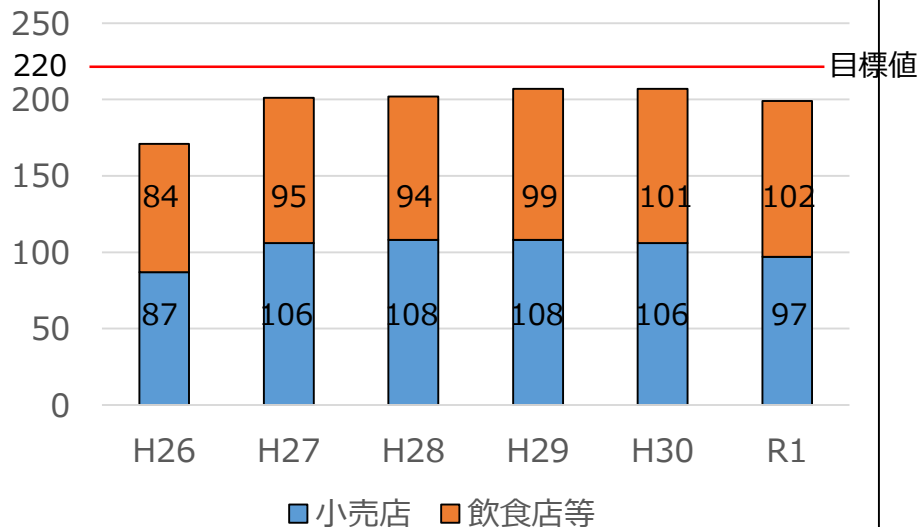
しかし、1人当たりの利用精米量に大きな変化はないため、米の地産地消に寄与している。

【参考】指標の分析(食と農で豊かな暮らしの実現)

基本方針(1)地産地消の推進 主要施策：地場農産物の消費拡大②

指標

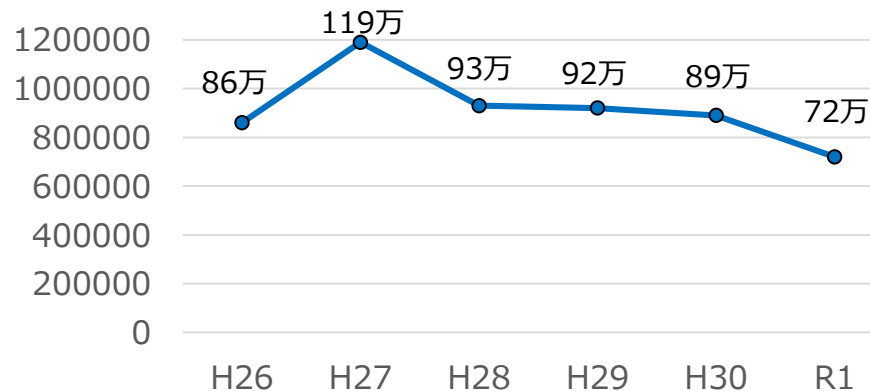
図29 地産地消推進店登録数



飲食店等の登録は年々増加している。小売店の登録は、令和元年度は支店を持つスーパーが廃業したため認定数が一時的に減少した。

飲食店では、着実に事業者の地産地消に対する理解が進んでおり、年々新規登録店が増加している。

図30 ボナペティ・シール配布枚数



ボナペティ・シール配布枚数の減少は地産地消推進店の小売店が減少しているためと考えられる。

表4 三条市地産地消推進PR事業

	H30	R1
参加店舗数	7店舗	10店舗
回収シール枚数	3,720枚	6,128枚

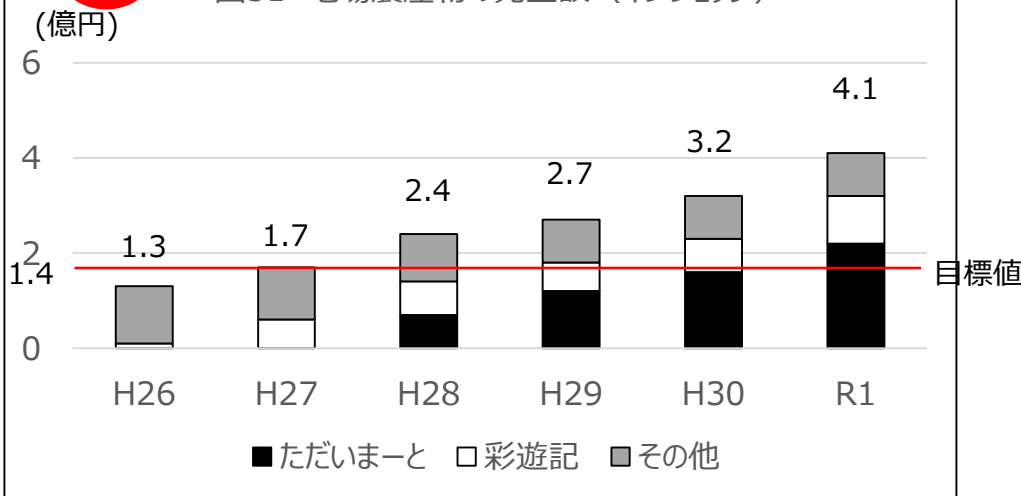
平成30年度から開始した地産地消推進PR事業で参加店舗数及び回収シール枚数が増加していることから、消費者の地場農産物の選択的購入に寄与している。

【参考】指標の分析(食と農で豊かな暮らしの実現)

基本方針(1)地産地消の推進 主要施策 イ 地場農産物の消費拡大②

指標

図31 地場農産物の売上額 (インショップ)

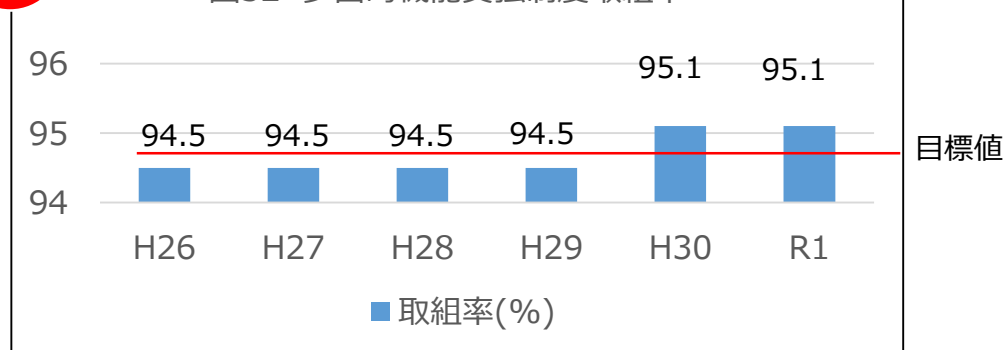


インショップにおける地場農産物の売上額は、年々増加している。特に平成28年度開設のただいまーとの影響が大きく、令和元年度実績で4.1億円と目標値の約3倍となっている。

基本方針(1)農村環境の保全 主要施策 ア 農業の多面的機能の理解促進

指標

図32 多面的機能支払制度取組率



一部地域を除き市内全域で取組が行われており、目標は達成されている。

〈多面的機能支払制度での活動内容〉

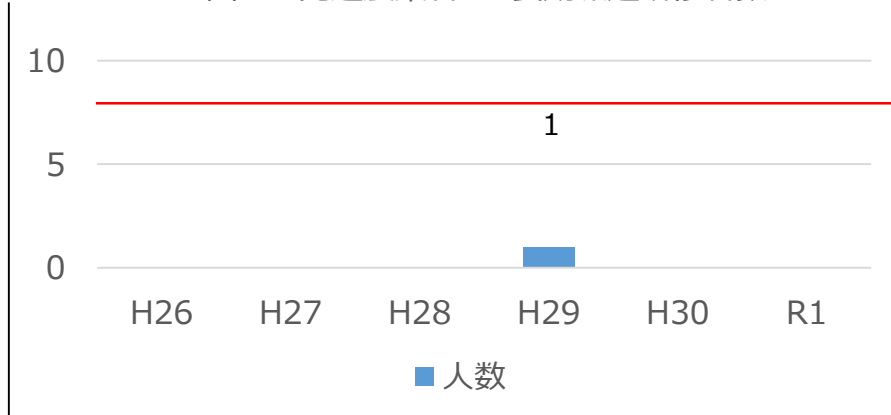
- ・ 水路の泥上げや農地法面の草刈り等の農業を支える共用設備の基本的な維持管理に対する活動
- ・ 植栽による景観形成や生態系保全などの農村環境保全活動を通じた、農業の多面的機能の理解促進

【参考】指標の分析(持続可能な農業基盤の確立)

基本方針(1)産業として成り立つ農業の確立 主要施策 ア 価格決定力のある農業者の育成・確保

指標

図33 先進農業者への長期派遣研修者数



目標値

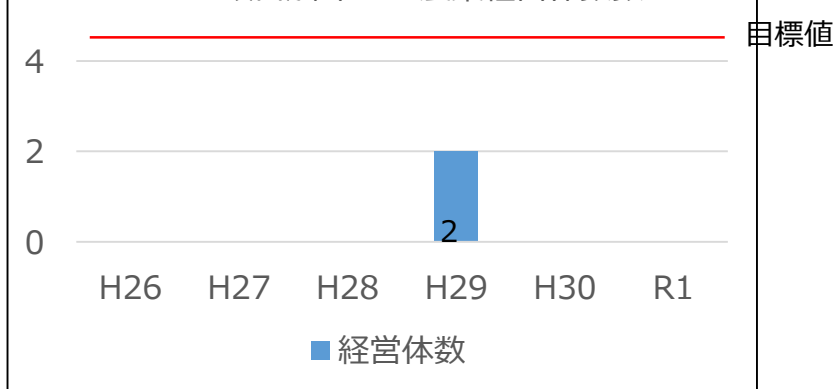
29年度に派遣研修生を確保し、新規就農につなげることができた。31年度以降、県外コースでの研修に加え、県内コースを新設するなどしたが、新たな派遣研修生の確保には至っていない。

基本方針(2)産業として成り立つ農業の確立

主要施策 イ 利益を追求し雇用を生み出す持続可能な農業法人の確保育成

指標

図34 体質強化支援事業などにより経営改善が図られた農業経営体数



目標値

29年度以降、新たな取組はなかったものの、農業法人等体質強化支援事業によりH30年3月に設立した農業法人の活動を継続支援する中で、グループ農業者を増やすことができた。

【参考】指標の分析(持続可能な農業基盤の確立)

基本方針(1)地域農業の持続的発展

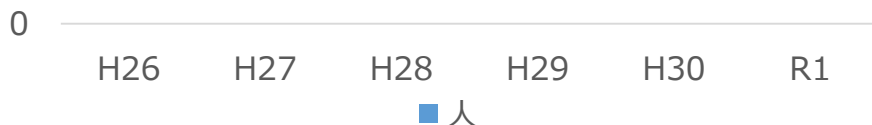
主要施策

ア 多様な農業者の確保

イ 農業環境の変化に応じた営農体制の整備

指標

図35 広域連携による農業機械利用活用農業者数



◎指標の評価

指標項目	策定時 (H26)	R1	評価	目標値 (H32)
広域連携による農業機械利用活用農業者数	0人	0人	△	20人
低コスト・省力化技術等の取組面積	-	19.9ha	△	数値設定なし

ラジヘリ肥料散布

目標は達成していない。地域により課題や実情が違う中で、地域の枠を超えた広域連携による農業機械利用活用体制の構築や、低コスト・省力化技術導入を推進することができなかった。